

共生

奈良県生協連

2019年10月

NO.114



奈良県子ども食堂ネットワーク会員交流会



福島の子どもの保養プロジェクト

もくじ

奈良子ども食堂ネットワーク会員交流会	1
生協組合員理事交流会	2
食の安全懇談会	3
福島の子どもの保養プロジェクト in なら	4
おじゃましました～奈良県労働者共済生協の巻～	5

2020年NPT再検討会議	6
なら小地域福祉活動サミット2019・協同組合デー	7
食品ロス	8
近畿地区生協・行政合同会議	9
3.11を忘れない	10

奈良こども食堂ネットワーク 会員交流会が開催されました



7月10日、ならコープ本部（奈良市）会議室にて、奈良こども食堂ネットワーク会員交流会が開催され、62名（内、こども食堂運営者21団体42名、サポート団体6団体20名）が参加しました。事務局は奈良県社会福祉協議会、奈良県生協連。事務局以外のサポーター団体としてならコープ、フードバンク奈良、奈良県子ども家庭課、奈良市ボランティアインフォメーションセンターのみなさんが参加しました。

当日は、世話役団体（子ども食堂を早くから立ち上げた団体など）と事務局が午前から炊飯、豚汁を調理し、こども食堂運営者が「ごはんのお供」を持ち寄り、8テーブルに分かれてお昼ご飯をいただきながら交流しました。

奈良県社会福祉協議会の岡本晴子さんから「全国の、そして奈良のこども食堂の今」について報告があった後、インタビュー形式で活動交流が行われました。

その後、情報交換タイムとして4つのテーマ（①もっと活動を楽しく、充実するためには？ ②運営スタッフ、ボランティアさんはどうしてますか？ ③地域とのつながり、大切ですよ ④最近気がかりなこと）に分かれ、グループごとに情報交流をしました。最後に奈良県社会福祉協議会学習支援員の福沢俊彦さんによる「気になるこどもたちをめぐって」をテーマにミニ講座を行った後、記念撮影をしてなごやかに閉会しました。



会場の様子



各こども食堂から自慢のおかずを持ち寄り、レシピの交換



東吉野村こども食堂の報告



4つのテーマで情報交換タイム



奈良県社会福祉協議会学習支援員
福沢俊彦さんによるミニ講座

参加者からは、「テーマ別に関心あることを選んで話せることや、一部二部といろんな方とつながれる仕組みを考えていただきながら、また子どもとのかかわり方のお話し等、みんなで共有しながら考えさせられる会で貴重な機会を大変感謝しております」との感想が寄せられました。

奈良こども食堂ネットワーク設立式の2017年8月から2年、奈良こども食堂ネットワークに参加されているこども食堂は46団体、サポーター団体は6団体になりました。（2019年6月現在）

組合員理事交流会を開催しました

9月9日大和郡山市市民交流館3階大会議室で、コープ自然派奈良、ならコープ、生活クラブ生協、奈良県医療福祉生協の理事と奈良県生協連スタッフ27名が参加し生協組合員理事交流会を開催しました。この交流会は奈良県生協連の組合員理事同士の交流の場とするのが目的で今回9回目の開催です。会員生協で構成する実行委員会で意見を出し合い毎回の企画を考えてきました。今回は各生協とも新任理事が就任されたこともあり、生協法と生協のガバナンス、役員の役割について考える機会とし、



講師の下川慶子氏

今年3月に開催した「会員生協役職員研修会」に続いて講師に日本生活協同組合連合会・総合マネジメント本部法務部 下川慶子弁護士をお招きしてお話を伺いました。



後半は、5グループに別れてワークショップを行い、各グループから「善管注意義務ってどこまで？どの程度？」「善管注意義務は経験や役職によって違いはあるのか」「監事の理事会出席義務はないのでは」などの質問があり「経験や役職によって義務の重さは変わらう。何かが起きた時初めて背景から判断される。」「監事の理事会出席は義務である。」と回答をいただきました。その後、参加者それぞれが「これから大切にしたいこと」を名札の裏に書き持ち帰っていただきました。

最後に司会の中野さんから、「むかし倫理の教科書で学んだソクラテスの『無知の知』という言葉思い出しました。知らないことは怖いこと、知らないことを知る機会をそれぞれの生協でも作っていただければいいと思いました。今日の学習もこれから活かしていければと思います。」と感想があり、それぞれ組織の違いはありますが共に学べた有意義な一日となりました。

生協に関する法的ルール

生協法とは生協が生協として活動できる根拠となる法律「生協法」と、各生協が定めている自治規範(自分たちのルール)として定款・規約がありその関係性について説明がありました。

生協のガバナンスと各機関の役割

ガバナンスとは「企業統治」と訳され会社は経営者のものではなく、「資本を投下している株主のもの」という考え方です。協同組合原則にある「人々の自治的な組織」と「共同で所有し民主的に管理する事業体」から考えると「人々の自治的な組織(組合員集団)」が「生協組合員共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いをみとす。」という目的に沿って、経営組織(事業体)を「民主的に管理する」ことが生協のガバナンスの意味するものと説明がありました。生協ガバナンスの仕組みとして総(代)会、理事会、代表理事、監事といった各機関の役割について説明されました。

役員の義務と責任

役員(理事)の基本的義務である「善管注意義務」「忠実義務」について詳しく説明がありました。生協に対して「任務を怠った場合(善管注意義務を果たさなかった)」、第三者に対して「職務を行うについて悪意または重大な過失があった」場合、責任を求められる場合があると説明されました。最後に事例を通して法的責任の有無の判断について説明がありました。



ワークショップを進行する上市佳織さん

役員としての
役割と責任は
一組合員として重
いが自分の勉強
だと思えて学習して

理事としての
立ち振る舞い
を勉強し、かわい
いく事(勉強)!!

理事会では
いかに自分の
意見を出していく

組合員の
利益について
ちゃんと考える

理事会で
気になったこと
は質問する
アクションをぶつける

勉強と強
い心で
成長する

大切にしたいこと

2019年度『食の安全』懇談会を開催しました 「ゲノム編集技術を利用した食品とは～いま何が問われているのか」

この夏から市場に流通する可能性があるとも報道されていた「ゲノム編集食品」。消費者はほとんど知らないのが現状です。今何が問われているのかを学ぶ機会として、7月11日に奈良商工会議所大ホールにて2019年度食の安全懇談会を開催しました。奈良県生協連会員生協の役職員や組合員60名が参加しました。



FOOD COMMUNICATION COMPASS
(フーコム)代表の森田満樹さん



開会あいさつをする奈良県生協連森会長

「ゲノム編集技術を利用した食品とは～いま何が問われているのか」をテーマにFOOD COMMUNICATION COMPASS (フーコム) 代表の森田満樹さんが、ゲノム編集技術の特徴や食品としての安全性、環境(生物多様

性)への影響、ゲノム編集食品の表示はどうなるのかなどについて話されました。講演後会場からの不安や疑問点の質問に丁寧に答えていただきました。

その後、奈良県消費・生活安全課課長補佐の松村かのさんからは、食中毒発生状況についての情報提供がありました。



奈良県消費・生活安全課課長補佐
松村かのさん

参加者からは、

「表示や届け出は義務化すべきだと思う」

「ゲノム編集食品については未知の部分が多く不安が大きいため、流通させる前にしっかりと検証する時間をとるべきだと思う」

「表示の義務化が実現すると思う。表示があれば自分の意思で選択できる。知らない間に『食べさせられた』は納得できない」

「ゲノム編集食品について最新の知見を学ぶことができて非常に有意義でした」



熱心に聞く参加者

「食の安全に関わることなので国民に説明して納得の上で流通させてほしい」

などの感想が寄せられました。

福島の子ども保養プロジェクトinなら ～家族でのびのびと奈良・関西を 楽しんでいただきました!～

7月26日から29日「福島の子ども保養プロジェクトinなら」として、福島の子どもたちとご家族(11家族30人)を奈良県にお招きし、ご家族でのびのびと奈良・関西を楽しんでいただきました。

(主催：市民生活協同組合ならコープ、共催：福島の子ども保養プロジェクト、華嚴宗大本山東大寺、近畿労働金庫、奈良ロイヤルホテル、NPO法人Cキッズネットワーク、(株)奈良コープ産業、奈良県生活協同組合連合会)

26日は、奈良女子大学附属中等教育学校の高校生によるウェルカムゲームをみんなで楽しみながら、和気あいあいと夕食交流しました。

27日は、ご家族ごとに自由行動で関西を楽しんでいただきました。USJ、道頓堀、法隆寺、日清カップヌードルミュージアム、健康ランドなどなど…。

28日は、東大寺の大仏様の大きさに驚き、鹿とのふれあいと記念ショット、夢風ひろばなど自由行動を楽しみました。午後からは、(株)奈良コープ産業による柿の葉ずしづくり体験、NPO法人Cキッズネットワークによる金銭教育講座(カードについて学ぼう!)を楽しみました。

夕食交流会では期間中に2名の誕生日の方がおられ、サプライズバースデー企画とギター演奏で盛り上がりしました。

29日は、「奈良の思い出発表会」として3日間の思い出を語り合い交流しました。

参加者からは、「周囲の除染はされたがその土がまだ庭に残り、回収されず庭で安心して遊ばせられない」「奈良公園や東大寺の苔にびっくり!今まで近づかないようにしていたため、自然いっぱいの奈良に來れ、3.11以前の生活に戻れた気がしてのびのびできました」



奈良公園で
鹿とのふれあい

無病息災を願って
柱の穴くぐり



「除染作業も進み、外遊びはさせていますが、山・川といった線量が高い所には近づかないようにしています。親として一番不安なのは食事です。心配しすぎだと思うのですが、県内・近県・近海のもの、特に海産物にはまだナーバスになってしまいます」「今の小学校4年生位の子どもたちは、ほとんど震災について覚えていません。このようなプロジェクトの意味や感謝の心を子どもたちに伝えるよい機会にもなります」「震災から8年経った今でもこうして皆さまのおかげで保養プロジェクトを続けていただけて、子どもたちと一緒にリフレッシュできました。また、元気に頑張っって行こうと思います。感謝の気持ちでいっぱいです」「震災への思いが、年月が過ぎていくたびに少しずつ薄れている今、こういった企画に参加することで他の地域の方々に忘れないでいただくこと、福島で子どもたちが元気に成長してくれていること、皆さんの支えで子育て出来ていることを知っていただける大切な場のように思います」「雨や植物、食べ物にストレスフリーでいられたことは親としても心が楽になりました。そして関西の方々の気さくで楽しく優しいところに触れ、本当にあたたかい気持ちになった4日間でした」などの感想が寄せられ、夏の思い出になったようです。



大仏様の説明



柿の葉ずし
作り体験



楽しく学びました



おじゃましました//

～奈良県労働者共済生協の巻～
こくみん共済coop



取材に応じて下さった理事長 小山淳二さん(右)と専務 中井信司さん(左)

「こくみん共済 coop」は、消費生活協同組合法(生協法)にもとづき、厚生労働省の認可を受けて設立された、共済事業を行う協同組合です。

労働者自主福祉運動からスタートした活動を核に、その領域を広げ、より多くの方と「たすけあいの輪」をむすぶため、今年6月から新たに「こくみん共済coop」を愛称として決めました。「こくみん みんなのために共済というたすけあいの仕組みを提供する協同組合(coop)」という意味が込められています。

Q.なぜ、愛称を使われるのですか？

A. 「共済」とは「みんなでたすけあうことで誰かの万が一に備える」という仕組みです。少子高齢化や大規模災害の発生など環境が大きく変化している中で、2017年9月に迎えた創立60周年を機に、いままで大切にしてきた「たすけあい」の事業と運動をさらに発展させ、様々な組合員の生活場面に合わせ、協同組合としての役割を再認識しながら、あらためてお伝えすることで、多くの方に「たすけあいの輪」に参加していただきたいと考え、愛称を使うことにしました。奈良でも「こくみん共済coop奈良推進本部」と言う名称になりました。

Q.奈良推進本部としての活動は？

A. 2018年度から「Win - Win - Win」を私たちの運動と事業のテーマとして取り組んでいます。共済事業を通じて組合員の生活向上に貢献することは当然のこととして、共済の取り組みを通じて、協力団体の各種活動や共済代理店の本業にも支援となることを意識した事業推進活動を展開します。そして、それが「信頼」という形になって、私たちの「Win」になると考えています。組合員や協力団体と接する場面や保障の提案場面を増やし、しっかりと「お役立ち」活動を実践していきます。

今年6月から愛称を「こくみん共済 coop」と定めた全労済(正式名称、全国労働者共済生活協同組合連合会)。

そこで、「こくみん共済 coop」の奈良推進本部でもある奈良県労働者共済生協におじゃましてお話を伺ってきました。

全国労働者共済生活協同組合連合会(全労済)のあゆみ

- 1954年 働く仲間が集まって大阪で火災共済事業を開始。
- 1957年 労済連が誕生。労働者共済の運動・事業が急速に成長。
- 1965年 団体生命共済が誕生。働く仲間のたすけあい制度が生まれる。
- 1976年 略称を「全労済」に改め、労働者共済の統合が完成。
- 1983年 こくみん共済が誕生。職場のたすけあいの仕組みを地域に。
- 1998年 阪神淡路大震災(1995年)を契機とした署名活動に取り組み、被災者生活再建支援法成立。
- 2011年 東日本大震災発生。被災された組合員に寄り添い続ける。
- 2019年6月 愛称を「こくみん共済coop」と定める。



「こくみん共済coop奈良推進本部」の玄関先。看板も新しく

奈良から核兵器廃絶の願いを届けます

2020年4月ニューヨークの国連本部において、核不拡散条約(NPT)再検討会議が行われます。日本被団協とともに日本生協連からも代表団が派遣されます。奈良県からは、カーン陽子さん(ならコープ組合員)と宮本志音さん(奈良県立大生協学生委員)が参加します。

生協の代表団は、ニューヨークで、①日本被団協の現地での活動(原爆展、証言活動など)をサポートします。②現地での集会等に参加し、核兵器廃絶のアピールを行います。③各国国連代表部を訪問し、国際社会に働きかけます。

2017年7月に国連で核兵器禁止条約が採択されました。また、核兵器を禁止し廃絶するために活動する世界のNGO(非政府組織)の連合体であるICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が、核兵器禁止条約の成立に貢献したとしてノーベル平和賞を受賞しました。また、「後世のびびりが生き地獄を体験しないように、生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」との思いから、被爆者たちが訴える核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)は941万筆となり、NPT準備委員会のサイド議長に届けられました。

一方で、国際的な核兵器をめぐる情勢は緊迫化しています。米ロの中距離核戦力全廃条約が米国によって廃棄され、また米国の臨界前核実験が実施されたり、米国の「イラン核合意」からの離脱と中東情勢の悪化など、核兵器廃絶の機運に逆行する動きも強まっています。



ノーベル平和賞で、ICANベアトリス・フィン事務局長と広島市の被爆者でカナダ在住のサーロー節子さん(ピースボート提供)

「原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許しません」(1984年「原爆被害者の基本要請」)

平均年齢が82歳を超えた被爆者は、「原爆は74年たった今も被爆者のからだ、暮らし、こころに被害を及ぼしている」とその非人道性、非人間性を訴えてきました。

被爆75年、NPT発効50年の年に開催される2020NPT再検討会議では、2000年、2010年の再検討会議で約束した『核兵器の完全な廃棄を達成する』ことの道筋を明らかにしなければなりません。NPT再検討会議に向けそのために私たちは核兵器廃絶の世論を大きく広げることが必要です。

2020NPT再検討会議に奈良県の生協から2名の代表が参加します

宮本志音さん

大学生協の学生委員会に所属して活動していた中で、平和活動を行う機会があり、その活動を通して、過去の戦争は、過去だけの話ではなく今にも影響を及ぼしていることを、改めて学びました。「今を生きている私たちの生活にも関わる問題であり、みんなで考えなければいけない」と感じました。NPTへ行き、現地での被爆者の方のサポートはもちろんですが、しっかり自分で意思表示を行い、現地で経験したことを帰ってきて伝えたいと思います。これから将来の平和や核兵器の廃絶を考えていく上で、私たち大学生世代の力は欠かせないものであると考えています。なかなか普段から考えることのないような話かもしれませんが、そんな大学生世代へカジュアルに考えるきっかけ作りを行います。



カーン陽子さん

現時点で自信をもって言えるのは「核兵器を使うのは絶対にダメだ」ということ。使うのは一瞬でも、人体や自然環境への影響は長きに及びます。被爆証言で語られる事実が他国では深く知られていないかもしれません。核兵器の被爆国である日本から何が発信できるのだろう、世界の人々と平和という共通の目的に向かってすすむことはどんなに意義あることなのだろう…。期待に胸が膨らみます。皆さまの想いを受け、ならコープ代表として参加してまいります。応援、どうぞよろしくお願いいたします。



NPTとは1970年に発行した「核兵器の不拡散に関する条約」で、2015年2月現在の締約国・地域は191カ国となっています。条約の主な内容は、核不拡散、核軍縮、原子力の平和的利用ですが、5年ごとに再検討会議が開催され、加盟国が条約の運用状況・核軍縮がすすんでいるかをチェックします。

第8回 なら小地域福祉活動サミット 2019年

8月31日、奈良県社会福祉総合センターにて、なら小地域福祉活動サミット(主催：社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会、共催：奈良県)が自治会やボランティア・NPO等の活動者、民生児童委員など約400人が参加され開催されました。基調講演では、千葉大学大学院教授木下勇氏から「みんなでつくる、やさしいまち」をテーマにこどもから高齢者まで、年齢を問わず多様な住民が集まり、意見を出し合い、その意見を融合させることで、新しい視点、アイデアが生まれることや、「子どもにやさしいまちはすべての人にやさしい」と世界の取り組み事例から住民参加型のまちづくりまで紹介され、地域の

未来づくりへの可能性について考える機会になりました。

午後からは、①「まだまだある地域の居場所～アイデア次第！彩豊かな場づくり」、②「〇〇×つながり＝無限大～いろんなコラボで地域の未来が拓く」、③「活動者おしゃべりサロン～活動者も参加者も楽しめる場づくり」、④「こども食堂まるわかり～こどもを真ん中においた居場所のレシピ」の4つの分科会に分かれ、その取り組みや工夫を学びました。



講師の木下勇氏



特別分科会「こども食堂まるわかり」

第27回奈良県協同組合デーのつどい

8月6日、ホテル・リガレ春日野において、「奈良県協同組合連絡協議会」の委員会が開催されました。

同協議会は、奈良県農業協同組合中央会、奈良県農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会奈良県本部、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会の5者が連携し、県内協同組合間協同の促進と情報交換を図るための連絡組織で、2018年度のまとめと2019年度の事業計画について確認しました。

そのあと開催された「第27回奈良県協同組合デーのつどい」では、生協役職員を含む協同組合関係者約100人が集い、協同組合運動の発展を祝い意義を確かめました。協議会副委員長で奈良県生活協同組合連合会森宏之会長の開会挨拶のあと、来賓を代表して奈良県くらし創造部消費・生活安全課田中利亨課長からご祝辞をいただき「協同組合の原点・精神をあらためて認識し、行政としてもその精神で臨み連携して取り組んでいきたい」との言葉を頂戴しました。

続いて奈良女子大学生活環境学部の青木美紗講師による講演「地域における協同組合の役割と可能性」で地域の課題解決に向けて学びました。講演では共通の目標を持つ人々の非営利組織である「協同組合」の歴史やしぐみ、吉野共生プロジェクト(吉野の森と水を守るための募金)などの協同組合間協同や新たな取り組みへの期待が述べられました。

また、地域内経済環境への取り組みをしている川上村(一般社団法人吉野かわかみらいふ)の事例を挙げ、「地域内経済環境の構築が地域課題を解決するひとつの鍵であること。エシカル消費・SDGsなど現在着目されていることに、長年培ってきた協同組合の歴史を生かしてできることはたくさんある」としめくり、協同組合の今後の展望を確認しました。

講演の後の懇親会では、県内農産物を使った料理を楽しみながら事業分野や組織を超えて親睦を深めました。



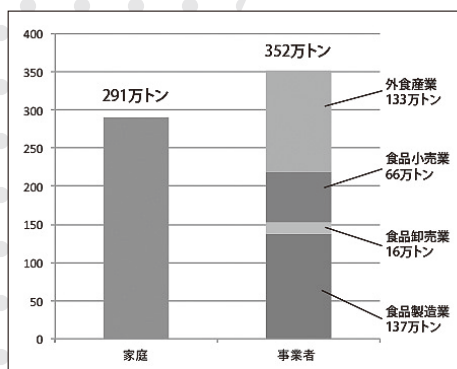
講師の青木美紗氏

食品ロスの削減に向けて



世界では多くの人が飢餓と食料不足で苦しんでいるという中で、それにもかかわらず大量に食糧を廃棄している現実があります。

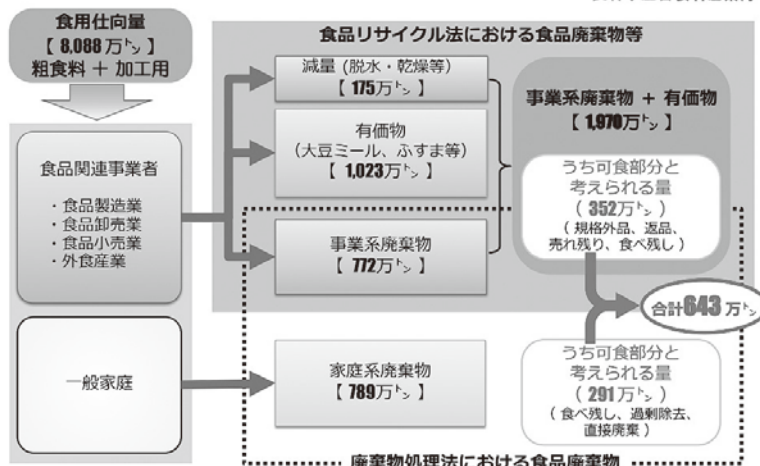
日本も大量に食糧を廃棄している国の一つです。しかも日本は食料の輸入依存度が高く、平成28年(2016年)度の食料自給率は38%です。大量に世界から食糧を買い付け、大量に捨てていることになります。(右：食糧廃棄物等の発生量の図参照)



日本な食品ロスの内訳
食品ロスポータルサイト平成28年度版より

食品廃棄物等の発生量 (平成28年度推計)

農林水産省 食料産業局



その中でも、本来食べられるのに捨てている食品ロスは、日本では平成28年度に約643万トン(事業者から約352万トン、家庭から約291万トン)が発生したと推計されています。(食品ロスポータルサイト平成28年度版)(左：日本の食品ロスの内訳の図参照)

食糧を大量に捨てているのは、スーパーやコンビニだと思われる方が多いと思いますが、実は家庭からの廃棄は約45%を占めます。そこで、国も自治体も事業者も消費者も一体となって食品ロスを減らす取り組みが必要な事から、今年、日本では、食品ロス削減推進法が成立し、国・地方自治や事業者・消費者の役割が明記され、10月が食品ロス削減月間となりました。

奈良県内での取り組みは？

2017年12月にこども食堂を運営する人や環境問題に取り組む人達でフードバンク奈良が設立されました。奈良県生協連も役員として関わっています。2018年9月からは、ならコープがコープふれあいセンター六条(奈良市)の一角をフードバンク奈良に貸し、共同購入のキャンセル品を毎週寄贈すると共に、他の団体や行政からの食品を保管する倉庫や仕分けと配送する作業場として活用されています。設立時の2018年1月から2019年7月までに自治体や団体によるフードドライブ*も含め、7.1トンの食品を扱い、のべ254団体にお届けしました。登録している団体は、子ども食堂や障がい者支援団体、生活支援する市町の社会福祉協議会など63団体になりました。

*フードドライブ：家で余っている食べ物などを持ち寄り、それをまとめて地域の福祉施設や、フードバンクなどに寄付する活動



燃えるごみに入っていた手つかず食品
(奈良市提供2018年3月調査)

自治体でも食品ロス削減法の成立を受け、具体化を検討中のようです。奈良市では「ならしみんたより」に食品ロスとフードバンク奈良の記事が掲載されました。また、奈良県主催のフォーラムが10月30日に企画されています。各地のイベントでもフードドライブが実施される計画です。

第30回 奈良県生協大会

- 日時：2020年2月8日(土) 14:00～16:30
- 場所：奈良ロイヤルホテル

食品ロスをへらすために私たちにできること!

講師 井出 留美氏(食品ロス問題ジャーナリスト)

- 奈良県内の取り組み
- ・おてらおやつクラブの取り組み
- ・フードバンク奈良の取り組み
- ・ならコープの取り組み



第31回 近畿地区生協・行政合同会議

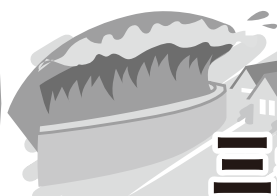
「安心してらせる地域社会づくりをめざして」をテーマに、第31回近畿地区生協・行政合同会議が8月28日に奈良ロイヤルホテルで開催されました。毎年行政と生協関係者が一堂に会し交流するもので、本年度は奈良県からくらし創造部 梶田斉志部長、消費・生活安全課 田中利亨課長と細川こずえ主任主査及び奈良県生協連が参加しました。厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室の石川智己氏からの挨拶と報告では、平成30年度の消費生活協同組合の実態調査結果報告(行政との災害時の締結状況など)がありました。行政合同会議や日常の関係を通じて生協と行政が情報共有をはかり、日常における地域の課題の共通認識等の目線合わせをすることは地域福祉の観点から大変重要であること、また、社会構造の変化に伴うくらしの変化や組合員のニーズの変化など生協に求められている役割・期待はますます大きくなるため、地域社会になくてはならない組織としてより一層の活躍を期待しますとの生協活動への期待を述べられました。



開会あいさつする近畿地区生協・府県連協議会 木田代表

大阪大学大学院の渥美公秀教授による特別講演「連携と協働でつくる市街に強いまちづくり」ではご自身のボランティア経験をもとに地域でのたすけあいのあり方と生協への期待を寄せられました。「連携と協働でつくる災害に強いまちづくり」をテーマに、この間の災害現場の体験から学んだボランティア活動から高齢者・障がい者、外国人、子ども、女性が真の主役になるように地域で連携し、協働でまちづくりにすべきとの提起がありました。

その後、①「コープdeエシカル消費取組」(滋賀県総合企画部県民活動生活課)、②「協同組合間協同による社会的課題解決の実践～虹の仲間づくりカレッジ～」(兵庫県生協連)、③一般社団法人かわかみらいふ地域活性化の取り組み(奈良県川上村地域振興課)、④特定適格消費者団体KC'sの活動報告(消費者支援機構関西)のあと、質疑と意見交換がかわされました。



災害時における 三者連携・協働に向けた研修会



8月26日、奈良県産業会館大ホールで、参加14団体129名が参加し災害時における三者連携・協働に向けた研修会が奈良県と内閣府(防災担当)との共催で開催されました。

内閣府政策統括官付企画官 石垣和子氏、奈良県くらし創造部部長 梶田斉志氏のあいさつの後、「全国における三者連携の現状」内閣府 石垣和子氏、「三者連携の必要性」JVORD代表理事 栗田暢之氏が講演されました。その後「災害時の事例からみた三者連携」のテーマで、倉敷市企画経営室主幹 大橋俊文氏、倉敷市社協常務理事 安原恭子氏、災害支援ネットワークおかやま事務局 詩叶純子氏によるパネルディスカッションが行われました。午後からは、「奈良県の防災の取り組み」知事公室次長 中西秀人氏、「災害ボランティア受援体制整備事業」青少年・社会活動推進課係長 鈴木ふみ恵氏の報告の後、「災害時に多様な主体が、連携・協働してよりよい被災者支援を行うために奈良県域で取り組むことを検討する」ことを目的にワークショップを行いました。

※JVORD…特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

3.11を忘れない

被災地のいま
みやぎ生協・コープふくしまから
宮城・福島のいまをお伝えします。

—まち・住まい・コミュニティ—

地域課題を解決できる 自治組織をつくる 宮城県亘理郡山元復興ステーション

2019年9月5日

山元町は町域の約4割が津波で浸水しました。被災した住民の多くは、内陸に移転したJR常磐線が通るつばめの杜地区などの新市街地に集団移転し、新たなコミュニティを形成しました。沿岸部に残って暮らすことを選んだ住民たちも、地域コミュニティの再構築に向けて歩み始めました。

山元復興ステーションは、山元町の委託を受けたNPO法人神戸まちづくり研究所が運営する団体です。2012年11月の発足以来、住民に寄り添いながらコミュニティづくりの支援を続けています。「当初は逆風のなかでの活動でした」とステーションを率いる橋本大樹さんは言います。

行政とのコーディネーターとして参加した会議では“どうせ行政の代弁者だろう”と不信感を持たれ、不平や不満を聞くことから始めました。信頼に変わってきたのは、ステーションの支援で住民自身が地域内の課題に取り組み、“自分たちもやればできる”という成功体験を積むようになってからです。

集団移転地に自治会ができた時、橋本さんは住民に「将来的には皆さんが自分たちで地域の問題・課題を解決できるようにならなければならない」と伝えました。

一つは人口減少が急激に進んだため。もう一つは、住民と行政の“協働”でまちづくりを進めてほしいとの思いがあったからです。沿岸部の中浜地区は震災を境に世帯数が315世帯から26世帯に減りました。笠野地区も磯地区も世帯数は震災前より激減しました。人口が減れば当然行政の職員も減ります。「すると、例えば草刈など今まで行政が担っていたことを地域が行なう時代になる。そうなった時に受け入れ態勢ができていない自治会とそうでない自治会では、苦勞の程度に差が出ます」。少ない住民で地域をどう維持していくか…。「何から何まで行政に要望するのではなく、普段から、この課題は行政に任せる、この事業は行政と一緒に実施する、これは自分たちが担うという分別をしておくことが大切です」。

橋本さんは「協働とは、住民と行政が対等な立場で意見を言い合えること」と言います。住民が自分たちで地域の課題を解決しようとする気運も、そうした関係のなかから生まれるのでしょう。

震災から8年半。コミュニティ再生はこれからが正念場です。



山元復興ステーションの橋本大樹さん。
2012年、神戸まちづくり研究所から派遣されて
山元町へ移住しました。



公園利用者の有志で公園管理会を組織し、
清掃や樹木施肥などの活動を行なっています。
(写真提供：山元復興ステーション)

7月

- 4日 奈良県生協連第2回理事会
- 10日 こども食堂ネットワーク会員交流会
- 10日 JCA全国交流会
- 11日 食の安全懇談会
- 12日 奈良防災プラットフォーム連絡会
- 16日 組合員理事交流会実行委員会
- 19日 ピースアクションをすすめる会
- 26~29日 福島の子ども保養プロジェクト in なら
- 31日 奈良県労働者共済生協総代会

8月

- 1日 近畿地区生協府連協議会
- 6日 第27回協同組合デーのつどい
- 28日 第31回近畿地区生協・行政合同会議
- 31日 なら小地域福祉活動サミット 2019
- 31日 奈良県防災総合訓練 (主催 奈良県、桜井市)

9月

- 4日 奈良地区「ろうきん & 生協連」懇談会
- 9日 生協組合員理事交流会
- 12日 ピースアクションをすすめる会
- 19日 奈良県生協連 第3回理事会
- 19日 会員生協理事長交流会
- 26日 日本生協連関西地連運営委員会

公告

ピースアクション IN なら2019

核兵器をめぐる世界の動きと私たちにできること

講師：中村桂子氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授）

日時：11月30日（土）13：30～16：30

会場：奈良商工会議所 4階中ホール

要申込

- ・リレートーク
- ・奈良北高校放送局作製のDVD
「Peace ディスカッション」上映・顧問の先生のコメント
- ・Peace Now! 奈良 報告（大学生協の学生委員の企画）
- ・NPT再検討会議生協代表団派遣者の紹介

主催：奈良県生活協同組合連合会・ピースアクションをすすめる会

後援：奈良県・奈良市・公益財団法人奈良YMCA



編集後記

着任早々、転倒でけがをしてしまい健康の
ありがたみと転倒による「けが」が多いことを
知りました。

厚労省のデータ（平成30年）では労災件数
12.7万人の25%が転倒によるもので50代以上
になると30%を超えるそうです。しかも危険
な段差はまさかとは思いましたが「2ミリ」と
いわれており、年齢を重ねるとともに、視力
や握力、バランス保持能力といった身体機能
が低下するため、増加するそうです。自分は
大丈夫とは思わずに各職場で働く環境に気配
りできること（労災を予防する取り組み）が求
められます。

（弘）

残り約3か月。ほっとしたりちよっぴり寂
しかったり…。思い切って事務所を整理し段
ボール15箱分も処分しました。我家でもクロ
ス張替となりこれまた山のような処分品が出
てきました。日頃からの整理（処分）の大切さを
痛感しました。

（和）

東京の共働きの次男のところに2人目の赤
ちゃんが生まれるとのこと。若夫婦から要請
があり、東京にしばらくの間支援に行くこと
になりました。女性が長く働くためにも、若
夫婦のためにも「パパバヤジジの育児」が必
要になる時代です。

（順）

今年の夏は打ち上げ花火を見る事もなく、
中秋の名月をめぐることもなく（月見団子は食
べました）季節が移っていきました。ゆっくり
紅葉狩りができたいいなあ。今年も3か月
このまま頑張ろう。

（佳）